

高校生の自我構造と性行動に関する意識 との関係について

川崎医療短期大学 第一看護科

登喜 玲子 太湯 好子 杉田 明子 谷原 政江 酒井 恒美

(平成4年8月24日受理)

Relationship between Sexual Behavior and Self-structure in High-school Students

Reiko TOKI, Yoshiko FUTOUYU, Akiko SUGITA
Masae TANIHARA and Tsunemi SAKAI

*Department of Nursing
Kawasaki College of Allied Health Professions
Kurashiki, Okayama 701-01, Japan
(Received on Aug. 24, 1992)*

Key words : 高校生, 性知識, 性行動, 自我構造

概 要

思春期にある高校生の性知識と性行動の認識を知りたいと考え、自我構造と性行動に関する意識や避妊の方法にたいする知識の調査を行った。自我構造の分析には東大式エゴグラム (TEG) を用いた。

その結果、高校生のエゴグラムは思春期の特徴であるC主導型を示し、性行動とエゴグラムの特徴を分析すると、男女とも、FCの高さは性行動を自由にし、ACの高さは性行動を抑制する方向に働くといえる。また、性行動のコントロールにはAの高さが関与していると思われる。避妊の方法に対する知識は、男女とも具体性に欠ける曖昧なものであり、知識・技術面においての避妊についての知識も充分とはいえず、自分の性行動をコントロールする能力があるとはいえないようである。

I. はじめに

思春期は性に対する関心が高く、身体的発育と自我の発育の歪みから生じる性に関する問題が起こりやすい。近年、若年者の性の乱れは大きく、社会の関心をよんでいるところであり、性教育をどのようにおこなうかは、重要な課題である。そこで、思春期にある現代の高校生の性知識や性行動に関する認識を知りたいと考え、自我構造と性行動に関する意識や、避妊の方法にたいする知識について調査を行った。その結果に若干の示唆を得たので報告する。

II. 調査方法

県立普通科高校 (男女共学) の2年生453名を対象に、性知識と仮定のもとでの性行動について質問紙による調査をした。調査の実施は保健体育の授業中に教師の監督のもとで無記名自己記入方式とした。また東大式エゴグラム (TEG) ・チェックリストを用いて「批判的親」CP (Critical Parent), 「保護的親」NP (Nurturing Parent), 「大人の自我状態」A (Adult), 「自由な子供」FC (Free Child), 「順応の子供」AC (Adapted Child) の5つの自我の得点を求めた。調査期間は1989年10月23日～11月2日で、有効回収数 (回収率) は男子196名 (89%), 女子216名 (93%)

であった。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 性行動に関する意識と自我構造との関係

思春期は、自我同一性の形成・確立期である。そして、この時期の自我構造の特徴をエゴグラムでみると、C (Child) において、男女の別なく高く、エネルギー配分においてCが主導型であるといわれている¹⁾。今回の調査した高校生のエゴグラムを、石川ら²⁾がTEGの作成時に用いた男女別の一般成人男女の得点と比較すると、図1、図2の如くで、一般成人に比べて男子ではAC、FCが有意に高く、女子ではFCが有意に高い。今回調査対象とした集団でも、一般的な高校生のもつ自我構造を示しているといえそうである。思春期にある高校生のC主導型のエネルギーは、性に関する知識や現実認識のあ

まさをまねきやすいといえそうである。

次に性行動に関する意識については、仮定のもとで自分がとるであろう行動として、男女別に表1に示した4項目の質問について、それぞれに5項目の選択肢を設け、5者択一で回答を求めた。次いで、その回答について、男女別に表2、表3に示した基準をもとに、I群「一般的な高校生らしい意見をもつ者」、II群「性に対して比較的奔放な考えをもつ者」、III群「性に対して強い拒否的感情を抱く者」、IV群「I、II、III群に分類できなかった者」に分類した。各群に属す人数と率は表4の如くであった。

このことから、男女差でみると一般的な高校生らしいと思える意見をもつ者は、有意に女子より男子に多く、性に対して比較的奔放な考えをもつ者は、女子より男子に多く、性に対して強い拒否的感情を抱く者は男子より女子に多い

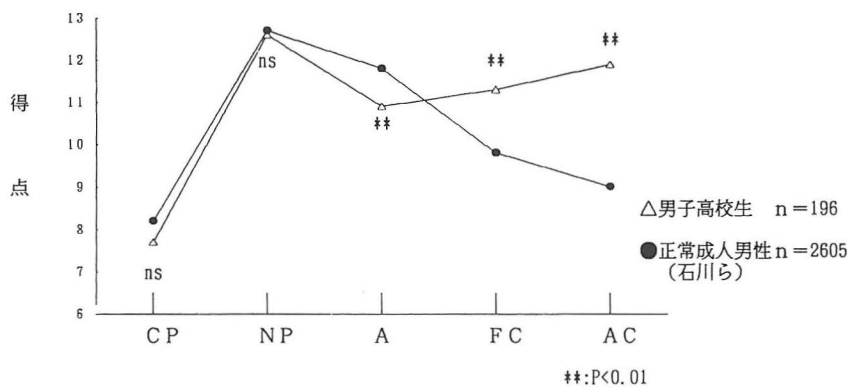


図1 男子高校生と成人男性のエゴグラムの比較

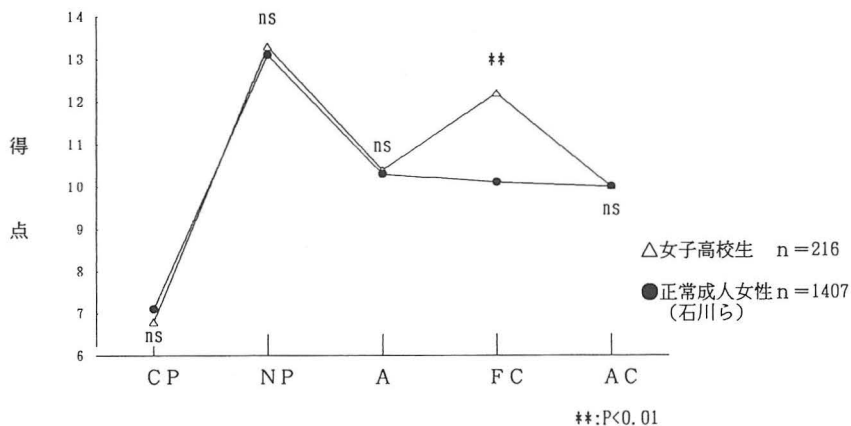


図2 女子高校生と成人女性のエゴグラムの比較

ということが明らかになった。

2. 男女別の性行動とエゴグラムの特徴との関連

男子の性行動からみた群別にエゴグラムを偏差値によって示したものが図3である。偏差値

は男子全員での平均得点を基準として求めた。

I群は「一般的な高校生らしい意見をもつ者」の集団らしく、全男子生徒の基準集団とほぼ一致したエゴグラムを示している。II群はI群に比べFCが有意に高く、他のエネルギーも平均

表1 仮定のもとでの自分がとるであろう性行動についての質問項目

男子	質問1. 性交渉を行う際の避妊行動について 質問2. 性交渉の欲求が高まった場合の対処方法 質問3. 相手の女性から妊娠を告げられた場合の態度 質問4. 高校生の人工妊娠中絶について
女子	質問1. 性交渉を行う際の避妊行動について 質問2. 性交渉を求められた場合の対処方法 質問3. 妊娠した場合の態度 質問4. 高校生の人工妊娠中絶について

表2 男子高校生の性行動に関する回答の組合せによる群分け

I群：一般的な高校生らしい意見をもつ者 107名 (54.6%)
各質問に以下のいずれかを回答した者
質問1：性交渉を行う際の避妊行動
回答①今は性交渉を行うことなどありえないので考えていない
②お互いが相談しあい、協力すべきである
③男性が理性的に避妊法を実施すべきである
質問2：性交渉の欲求が高まった場合の対処
回答②相手のことを考えて自制する
③自分の将来のことを考えて自制する
⑤どうしても相手に求めることができない
質問3：相手の女性から妊娠を告げられた場合の態度
回答②今後について相手と一緒に考える
③自分の現在の立場や将来のことを考えて中絶手術をすすめる
⑤両親や友人に相談する
質問4：高校生の妊娠中絶
回答②相手の身体のことを考えるとすすめがたい
③自分の将来のことを考えるともっともな手段である
⑤なんともいえない

II群：性に対して比較的奔放な考えをもつ者 21名 (19.7%)
各質問に以下のいずれかを回答した者
質問1：性交渉を行う際の避妊行動
回答④気の向くまま
質問2：性交渉の欲求が高まった場合の対処
回答④欲求にまかせる
質問4：高校生の妊娠中絶
回答④あまり気にならない

III群：性に対して強い拒否的感情を抱く者 19名 (9.7%)
各質問に以下のいずれかを回答した者
質問2：性交渉の欲求が高まった場合の対処
回答①異性には興味がないので考えていない
質問3：相手の女性から妊娠を告げられた場合の態度
回答①相手の女性を非難する

IV群：その他分類できない者 49名 (25.0%)

表3 女子高校生の性行動に関する回答の組合せによる群分け

I群：一般的な高校生らしい意見をもつ者 80名 (37.0%)
各質問に以下のいずれかを回答した者
質問1：性交渉を行う際の避妊行動
回答①今は性交渉を行うことなどありえないので考えていない
②お互いが相談しあい、協力すべきである
③男性が理性的に避妊法を実施すべきである
質問2：性交渉を求められた場合の対処
回答②相手を傷つけないように断る
③将来のことを考えて受け入れない
質問3：妊娠した場合の態度
回答②今後について相手と一緒に考える
③自分の現在の立場や将来のことを考えて中絶手術を受ける
質問4：高校生の妊娠中絶
回答②相手のことを考えると仕方がないことである
③自分の将来のことを考えるともっともな手段である
⑤なんともいえない

II群：性に対して比較的奔放な考えをもつ者 8名 (3.7%)
以下のいずれかを回答した者
質問1：性交渉を行う際の避妊行動
回答④気の向くまま
質問2：性交渉を求められた場合の対処
回答④興味本位で受け入れる
回答⑤拒否することができず、受け入れてしまう
質問4：高校生の妊娠中絶
回答④あまり気にならない

III群：性に対して強い拒否的感情を抱く者 47名 (21.8%)
以下のいずれかを回答した者
質問2：性交渉を求められた場合の対処
回答①結婚するまでは絶対に拒否する

IV群：その他分類できない者 81名 (37.5%)

表4 男女の性行動からみた群別の割合

		男子 (人 (%))	女子 (人 (%))
I群	一般的な高校生らしい意見をもつ者	107 (54.6) └─* *─┘	80 (37.0) └─* *─┘
II群	性に対して比較的奔放な考えをもつ者	21 (10.7) └─* *─┘	8 (3.7) └─* *─┘
III群	性に対して強い拒否的感情を抱く者	19 (9.7) └─* *─┘	47 (21.8) └─* *─┘
IV群	その他分類できない者	49 (25.0) └─* *─┘	81 (37.5) └─* *─┘
計		196 (100)	216 (100)

* * : p<0.01

的に低く、AC も有意に低い。Ⅲ群はⅠ群に比べAとACが有意に高いという特徴をもっている。これらの結果から、Ⅱ群の「性に対して比較的奔放な考えをもつ者」に属す男子はFCが特に高く、他のエネルギーの低さからFC優位の行動に結びつきやすく、高校生集団の中でも周囲を気にせず自由に行動するタイプといえる。また、Ⅲ群の「性に対して強い拒否的感情を抱く者」はAC優位のW型を示す。このW型は高いACとCPによって葛藤状態に陥り、にっちもさっちもゆかなくなった時に、自分に怒りをむけてしまい、低いFCによって生きる目的が

もてなくなってしまう。そして、高いAでいかにして自己破壊を実行するかを考えてしまうタイプ³⁾といわれている。男子高校生の場合、自分の中からつきあげてくる性衝動とどう付き合っていくかという点で、指導上慎重さを要する集団といえる。

次に、女子について同様に性行動からみた群別にエゴグラムを示したものが図4である。女子の場合、Ⅰ群、Ⅱ群に関しては、男子と似たパターンを示している。男子同様、他のエネルギーが低く、FCのみが高いエゴグラムをもつ者は、性行動を比較的奔放にさせるといえそうで

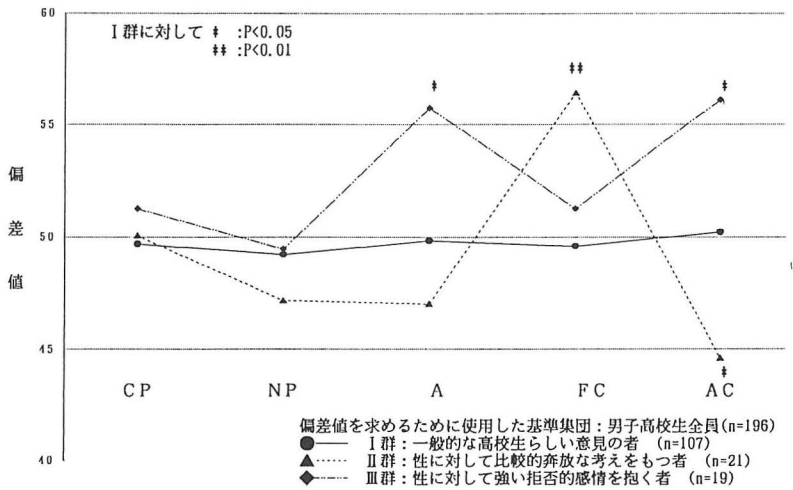


図3 男子高校生の性行動に関する回答からみた3群のエゴグラムの特徴

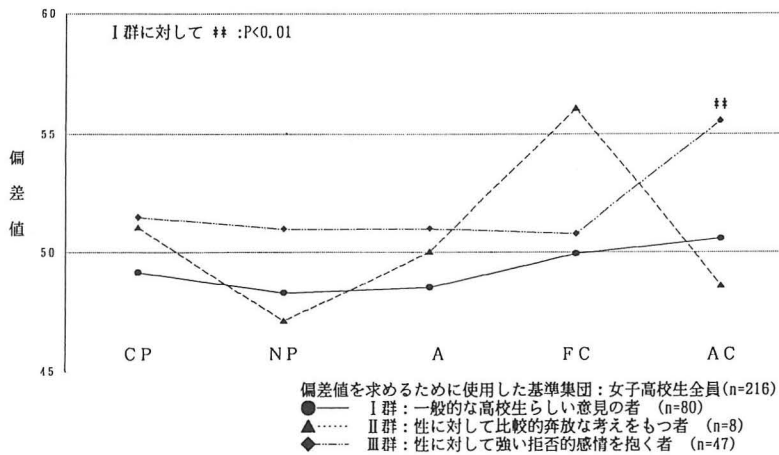


図4 女子高校生の性行動に関する回答からみた3群のエゴグラムの特徴

ある。そして、Ⅲ群の「性に対して強い拒否的感情を抱く者」はⅠ群に比べACが有意に高く、エゴグラムパターンからみると、AC 優位型といえる。この型はAの低さとも関係し、消極的で自己主張ができず、自分の判断で行動することができないといわれている⁴⁾。このことから考えると、拒否的感情が強いにもかかわらず、状況の中では押し流されてしまう危険性をもっている集団といえそうである。

性行動とエゴグラムの特徴を分析すると、男女とも、FCの高さは性行動を自由にし、ACの高さは性行動を抑制する方向に働くといえる。また、性に対して強く拒否的感情を抱く者では、男子の場合はAで性に対する衝動をコントロールしていると考えられる。このことは、男子と女子のAの高さが全体ではほぼ一致しているのに比べ、Ⅲ群に関してはAの男子の平均点が 13.32 ± 3.50 と女子の平均点の 10.72 ± 2.98 より有意に高いことからもうなずける。女子学生については、ACの高さは女子のおかれた社会・文化的要因と関連があるようにも思える。

3. 避妊の方法についての認識

性知識として、特に避妊の方法についての認識に注目した。

各避妊法（ピル、コンドーム、ゼリー、オギノ式、IUD、ペッサリー、性交中絶、基礎体温法）の特徴と名称を結びつける問いの正解率は、図5に示すように男女共に、

50%以上の者が正しく回答をしたものは、ピル、コンドーム、オギノ式、性交中絶、基礎体温法であった。この中でも避妊方法として一般化しているコンドームを用いる方法と基礎体温法については男女共90%近い者が正しく回答し、オギノ式については70%以上の者が正しく回答している。男女による認識の違いをみると、有意の差があったものは、性交中絶と基礎体温法であった。この2つの方法に関しては、男子と女子の性生理の違いから差が生じたものと考えられる。

次に、基礎体温グラフによる避妊法の知識について基礎体温の基本的なグラフを示し、最も妊娠しやすい時期と妊娠しやすい時期、安全期を尋ねた問題に対して、3問とも正解した者は表5のように、男子30名（17%）、女子58名（28%）で、男女ともに低率であったが、女子は男子に比べると正解率は有意に高率であった。

同一のグラフ上で排卵日を尋ねた問題に対する回答をみると表6に示すように、排卵日を最も妊娠しやすい時期と答えた者は男子66名（39%）、女子113名（56%）で男女とも正解率は低い。このことについても女子は男子に比べると有意に高い正解率であるが、女子生徒の約半数の者しか排卵日について正しく認識していない。このことは自分自身の体の生理を知らないという点で、大きな問題であると思われる。また、不正解のうち排卵日が安全期の中にあると答えたのは、男子80名（47%）、女子60名（30%）で

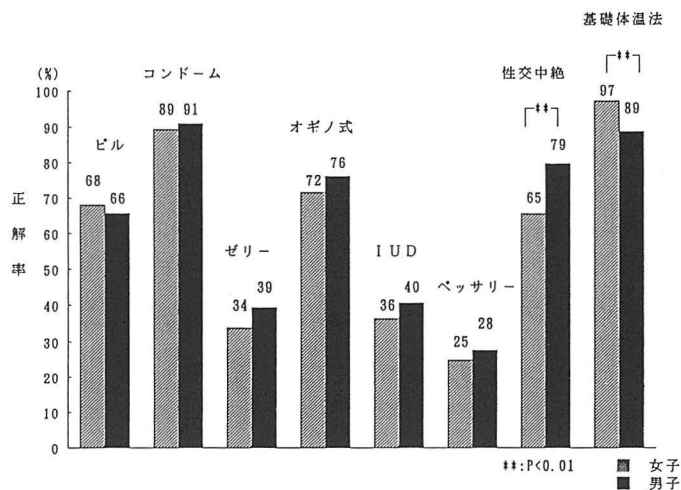


図5 高校生の避妊法に関する認識

あり、女子に比べ男子の方が有意に高く、誤った知識を持っているといえる。この点から、男子は女子より排卵日と受精期が一致するという認識が低いといえ、性教育をおこなう時、性の違いによる性教育のありかたを考えることが必要であるように思う。

表5 基礎体温グラフによる避妊法についての知識

	正解 (人(%))	不正解 (人(%))
男子 (178人)	30 (17)	148 (83)
女子 (209人)	58 (28)	151 (72)

* : p<0.05

表6 基礎体温のグラフ上での排卵日の読み取り

	妊娠可能期に 排卵日があると 回答した者 (人 (%))	最も妊娠 しやすい時期に 排卵があると回 答した者 (人 (%))	安全期に 排卵があると回 答した者 (人 (%))
男子 (170人)	24 (14)	66 (39)	80 (47)
女子 (201人)	28 (14)	113 (56)	60 (30)

* : p<0.05

IV. ま と め

避妊指導の本来の目的は技術を教えることではなく、自分の衝動を規制し、相手を選択する自立の教育である⁵⁾、といわれている。たとえ、避妊技術の知識があっても実行するとは限らないのである。ことに、思春期にある男女の性行動は衝動的なものが多いため、本人も相手も緊急な意志決定を迫られるわけだが、現代の若者には性に関する意志決定を障害する因子が多すぎるように思われる。これらに関連する因子の一つとして、今回高校生の自我構造と性行動との関連に注目して以下に示す結論を得た。

1. 今回調査対象とした高校生集団は、一般成人に比べ、男子ではAC、FCが有意に高く、女子ではFCが有意に高いC主導型で、思春期のエゴグラムに近い型を示した。

2. 性に対して比較的奔放な考えをもつ者の傾向は女子より男子に有意に高く、男女ともFC優位型のエゴグラムを示した。

3. 性に対して強い拒否的感情を抱く者の傾向は、男子より女子に有意に高く、男子の場合

はAC優位のW型を示し、女子の場合はAC優位型を示した。

4. 高校生の避妊方法についての知識の程度は、具体性に欠ける曖昧なものであり、効果のある避妊が実施できるとは、言いがたいようである。

5. 性知識は具体的に教育する必要があることと、男女の性の違い、自我構造の違いにより、性行動の発動のしかたが違ってくることを考慮し、性教育を行うことが必要であることが示唆された。

謝 辞

本調査の実施にあたり、ご協力頂きましたT高等学校の諸先生および生徒の皆様へ深く感謝いたします。

この論文の要旨は、第10回日本思春期学会学術集会において発表した。

文 献

- 1) 横山好治, 杉田峰康, 中村和子: 思春期のエゴグラムの研究, 交流分析研究, 5 (1), 2~18 (1980)
- 2) 石川 中, 他: TEG (東大式エゴグラム) 手引, 金子書房, 25 (1984)
- 3) 末松弘行, 和田迪子, 他: エゴグラムパターン (TEG 東大式エゴグラムによる性格分析), 金子書房, 117 (1990)
- 4) 末松弘行, 和田迪子, 他: エゴグラムパターン (TEG 東大式エゴグラムによる性格分析), 金子書房, 60 (1990)
- 5) 森山 豊: 性教育と家族計画の指導指針, 南山堂, 52 (1986)
- 6) 内山 源: 中・高校生は性ということをどのように考えているか, 保健の科学, 30 (2), 75~82 (1988)
- 7) 広井正彦, 川越慎之助: 性行動と性教育, 産科と婦人科, 45 (6), 32~38 (1978)
- 8) 渡辺一代, 他: 高校生の性意識・性知識調査, 母性衛生, 23 (1), 50~57 (1982)
- 9) 小林かよ子, 佐藤芳明: 高校生の生活と性についての意識調査, 母性衛生, 27 (2), 303~310 (1986)
- 10) 佐藤恒治: 思春期に適した避妊法 - 高校生のアンケート調査から -, 指導者ハンドブック・現代の家族計画, 日本家族計画協, 110~120 (1986)
- 11) 竹内未希代: 高等学校の性教育, 周産期医学, 20 (5), 673~677 (1990)